



病院長就任のご挨拶

病院長 武田 正之



2017年4月1日より病院長に就任いたしました武田正之です。専門は「泌尿器科」で、ロボット支援内視鏡下手術、通常の腹腔鏡下手術、排尿障害、腎移植、などを担当しています。2009年から2013年まで医療安全担当副院長、2013年から4年間医学部長を兼務し、このたび病院長を担当することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

本院は、1983年に山梨医科大学医学部附属病院として創設された山梨県唯一の特定機能病院です。2004年4月1日の国立大学法人化後は、国立大学法人山梨大学医学部附属病院となり、現在に至っております。

附属病院の再整備状況では、2015年に第Ⅰ期工事が終了して2016年1月から新病棟(南北)が稼働しており、現在は第Ⅱ期(インフラ切り回し)工事を実施中です。2020年4月には新病棟Ⅱが開院し、国立大学では最新の病棟になります。

現在稼働中の新病棟内の手術室には、手術台と心・血管X線撮影装置を組み合わせた本格的ハイブリッド手術室、我が国で最高の性能を誇る3テスラの高磁場MRI装置を搭載した手術室、手術支援ロボット「ダヴィンチ Si」専用手術室が設置されて

います。2013年6月に開始したロボット支援腹腔鏡下前立腺癌手術はすでに150例以上の患者さんに実施し、2016年9月から腎癌に対するロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術を開始してすでに20例に達しています。従来の腹腔鏡下手術では困難であった難易度の高い症例に対しても腎温存手術が可能です。他にも、多くの最新鋭の医療設備を備えており、安心・安全で高度・高質な医療の提供を心がけております。

今後も、山梨大学医学部附属病院が地域の皆さんに信頼される医療機関であり続けるよう、職員一同で努力して参ります。ご意見やご感想がございましたら遠慮なくお寄せください。

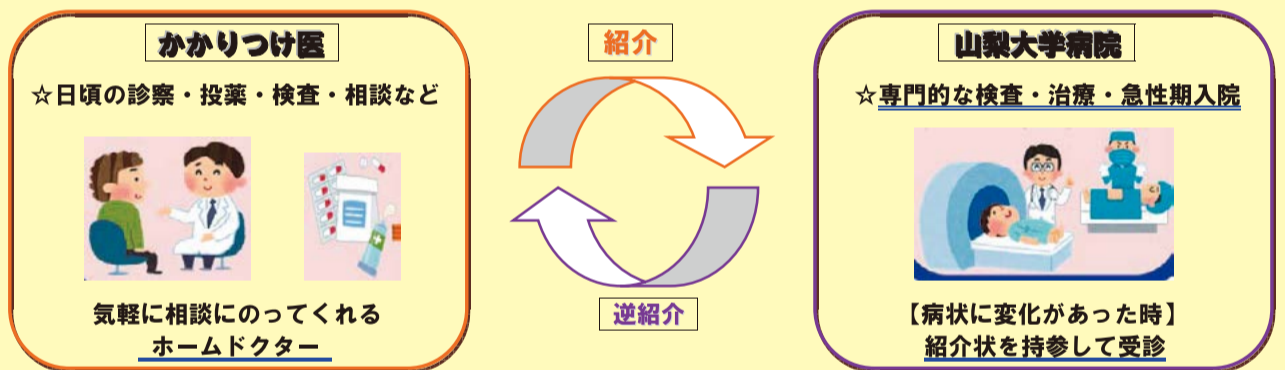


地域医療連携【地域のかかりつけ医 ↔ 山梨大学病院】について

医事課

本院は、高度な医療の提供を行う「特定機能病院」の承認を受けており、急性期医療の役割を担う使命を遂行していくために、地域の医療機関との円滑な連携に、より一層つとめてまいります。本院で必要な検査や急性期の治療が終わり状態が安定した患者さんには、「かかりつけ医」への通院の推進を行っております。身近な地域で健康の相談等が気軽にできる「かかりつけ医」は、比較的待ち時間も短く日常的な医療を受けられます。その後また病状に変化がみられた場合には、必要に応じてかかりつけ医からの紹介状をお持ちください。ご不明なことがございましたら、医療福祉相談窓口(7番窓口)にお問い合わせ下さい。

『住み慣れた地域で「かかりつけ医」を持ちましょう』



【患者さんのご理解・ご協力をお願いします】

本院診療科のご紹介

眼科

眼科の病気で命にかかわることはあまりありませんが、失明する疾患は数多く、本院の眼科ではその診断、治療、予防のための高度の医療を提供しています。また眼科は外科系の診療科で、手術による治療を多く行っています。病院の手術室で行う手術は年間約5,700件ですが、そのうちの1,000件以上は眼科の手術です。多い手術病名として、白内障、網膜剥離、糖尿病網膜症、黄斑円孔、網膜前膜、緑内障、斜視などがあります。白内障手術は開業の眼科の先生のところでもよく行われていますが、それ以外の網膜剥離、糖尿病網膜症、黄斑円孔、網膜前膜など網膜硝子体手術に関しては、県内での大部分の患者さんは本院で手術を受けています。

また、手術以外にも、糖尿病網膜症などに対するレーザー治療や加齢黄斑変性などに対する硝子体注射治療など、多くの治療を外来にて行っています。これらの治療を決定する診断機器として高度の画像診断機器が不可欠で、OCT(網膜の断面をみる生体顕微鏡写真撮影装置)、OCTによる網膜血管撮影装置、超広角眼底撮影装置、前眼部OCTなど最新の機器を利用して正確な診断につとめています。



糖尿病・内分泌内科、腎臓内科

当科は、糖尿病内分泌、腎臓、リウマチ膠原病の三領域に関する診療研究に従事しております。2014年より北村健一郎教授が新たに就任し、新しい診療科として生まれ変わりました。およそ二年半経過しましたが、新しい医局員が増え活気に溢れております。医局はいわゆる医師の会社のようなものですが、社風が良ければ人材も多くあつまり、患者さんへ対する診療内容もレベルも必然と高くなっていきます。診療内容に関してですが、まず糖尿病内分泌では、自己免疫が原因で発症する1型糖尿病から生活習慣で主に発症する2型糖尿病、著しい高血圧を起こす原発性アルドステロン症、バセドウ病や橋本病等の甲状腺疾患を含むホルモンの疾患を扱っております。腎臓は、体の老廃物を外に出したり、体液やイオンのバランス調節している臓器です。糸球体腎炎や血管炎の治療、慢性期の透析導入、腎移植の術前術後管理等を行っております。リウマチ膠原病は、関節リウマチを初めとする自己免疫による炎症性疾患を扱っております。関節エコーによる的確なリウマチ診療を得意としております。昨年10月には当科および皮膚科、整形外科と連携してリウマチ膠原病センターを県内で初めて設立しました。気軽に受診していただければと思います。



「アレルギーセンター」が開設されました

副アレルギーセンター長 上條 篤

みなさん、何かアレルギーをお持ちではないですか？アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、蕁麻疹など、多くのアレルギー疾患があります。なんと国民の30%の方が、アレルギー疾患を持っていると言われ、年々増加する傾向にあります。さらに、一人で複数のアレルギー疾患を持っている方も少なくありません。今まで、日本では、このアレルギー疾患に対して、内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科などそれぞれの診療科の先生が別々に対応していました。また、日本ではアレルギー専門医ではないのにアレルギー科を標榜することが可能

なため、適切な治療が行われていないこともあります。そこで、今回、皆さんがご持ちのアレルギー疾患を総合的に診断・治療・管理することを目的としたアレルギーセンターを4月1日より新設することになりました。将来的には1か所の外来にすべての診療科のドクターが集まって診療する体制になる予定ですが、当初はとりあえず現在の頭頸部・耳鼻咽喉科外来で診療を開始します。アレルギーの分野では舌下免疫療法や分子標的治療薬などの新しい治療も登場しています。日本のアレルギー疾患管理をリードするセンターを目指したいと思います。ご期待ください。

就任あいさつ

皮膚科長

川村 龍吉



平成29年1月1日付けで皮膚科科長を拝命いたしました。私は平成2年に山梨医科大学を卒業後に同皮膚科に入局し、他病院への出向や留学期間を除くと、本院皮膚科での勤務期間は今年で丁度20年目になります。これまで皮膚腫瘍と皮膚感染症を診療の専門としてきましたが、他にもアレルギー性皮膚疾患や自己免疫性疾患などにも取り組んできました。

さて、この時期になると県内の新聞やテレビ局から紫外線による皮膚癌に関する取材をよく受けます。山梨県の日本一といえはフルーツ収穫量と日照

時間ですので、燦々と降り注ぐ太陽光の恩恵で山梨のももやぶどうは本当においしいですが、一方で他県よりも紫外線による皮膚癌が発症しやすいことは想像に難くありません。もし顔や手などの露出した部位に疑わしい病変、たとえば赤いシミや真っ黒で盛り上がったイボ、最近できて急に大きくなる黒くていびつな形のホクロ・シミなどがあるようでしたら、是非とも当科を受診していただければ幸いです。また、他の皮膚疾患につきましても先進の医療技術を積極的に取り入れて、当科医師一丸となって地域医療に貢献していければと思っておりますので、今後とも何卒よろしくお願いたします。

消化器外科、乳腺・内分泌外科長

市川 大輔



平成29年3月1日付けで消化器外科、乳腺・内分泌外科科長を拝命致しました市川大輔と申します。私は、平成2年に京都府立医科大学を卒業後、京都の病院で外科医として勤務して参りましたが、一方で、外科手術だけでは完治させることが出来ない高度に進行した“がん”患者さんには、手術の前後に抗がん剤治療を併用した集学的治療も積極的にを行い、患者さんの治療成績を向上させて参りました。

当科では、食道・胃疾患を専門とするグループ、小腸・大腸疾患を専門とするグループ、肝臓・胆道・膵臓疾患を専門とするグループ、乳腺疾患を専門とするグループから構成されており、これまでも全国屈指の治療成績を誇っております。本年より私に加わることで、これまでの素晴らしい治療成績を保ちながら、より患者さんに優しい外科治療の実践と、臓器の機能を出来る限り温存するような新たな治療についても積極的に行うことで、「世界トップレベルの医療を山梨へ」をモットーに地域医療に貢献したいと思っております。何卒よろしくお願いたします。

1階西病棟看護師長

金丸 紀子



4月より1階西病棟の看護師長に就任いたしました。1階西病棟は婦人科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科で構成されている病棟です。大役を担うこととなりまだ数か月ですが、看護師長という仕事がいかに多くのことを求められるか身をもって感じています。これまでは常に師長さんが傍にいましたが、これからは私が現場の責任者として正しい医療、患者さんの心のケア、求められていることを自分自身で考え、スタッフに伝えていかなければなりません。大学病院に長く勤務し患者さんとの

出会いから多くのことを学びました。看護技術の習得や専門知識を学ぶことだけでなく看護師として何か感じる心を持つこと、感じる心は患者さんにとって満足する看護に繋がると思っています。看護師長として私らしく、大切な1階西病棟のスタッフと共に日々成長していきたいと思っています。

4階西病棟看護師長

山本 ゆかり



この度、4階西病棟の看護師長に就任いたしました。4階西病棟は糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、皮膚科、循環器内科、呼吸器内科で構成されている病棟です。緊急入院も多く稼働率の高い病棟であり、ベッドコントロールの難しさや責任の重さを感じております。その中で、一人でも多くの患者さんを受入れられるように病床管理を行っていきたくと考えています。入院患者さんは短期から長期の治療を要する方も多く、治療経過は様々ですが、患者さんが病気の自己管理を行いながら、元気に

在宅に戻れるようにスタッフと共に日々看護しております。良い看護を提供するために看護師自身が元気で笑顔でやさしく、一人ひとりが満足できる病棟づくりを目指していきたいと思っています。まだまだ力不足ではありますが、背伸びしすぎることなく自分らしく、初心を忘れずに努力していきたいと思っています。

材料部看護師長

渡邊 理映子



4月1日より材料部の看護師長に就任いたしました渡邊です。材料部は、病院中央診療部門の一つで、院内使用器材を安全かつ経済的に供給することが業務の根幹です。前任の師長のもと約2年、副師長として材料部の運営を学んできました。前任者からは「材料部は縁の下の力持ち。診療に支障を来さない状態を維持するのが当たり前の部署」ということを教えていただきました。自己の役割の重要性を認識し、他部署との連携を図りながら、診療を円滑に行える体制を整え、病院の理念である

「一人ひとりが満足できる病院」を目指していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

手術部看護師長

杉田 俊江



4月より手術部の看護師長に就任いたしました。「手術」という言葉を耳にしたとき、まず思い浮かぶのは「痛い」「怖い」といったマイナスのイメージではないでしょうか。同時に、病気を治したい、より良い生活を取り戻したいといった期待も大きく抱かれることでしょうか。本院に入院される患者さんのおよそ2人に1人は手術を目的に入院されます。医師や看護師だけでなく様々な職種からなる医療チームが連携し、患者さんの体にできるだけ負担をかけないような方法や、痛みを上手にコントロールする方法を取り入れながら、安全な環境で安心して手術を受けていただけるよう取り組んでいます。スタッフ一同、患者さん一人ひとりのご要望を大切にしながら、笑顔で丁寧な対応を心がけていきたいと思っています。